

R5年度実験原子力 インターンシップの経験を通して

東北大学 大学院工学研究科 量子エネルギー工学専攻
修士1年 松山・加田・相澤研究室

浅川大洋

実習参加の動機

令和5年度実験原子力インターン(高専生向け)参加当時

所属 : 秋田工業高等専門学校 専攻科1年 グローバル地域創生工学科 機械系
研究分野 : バイオメカニクス 身体運動の力学的解析を行い、歩行器の開発へ
進路 : 大学院への進学を検討 (機械系のロボット工学分野の研究室を訪問)
分野への印象 : 発電のイメージ(秋田高専では原子力に触れる機会が少ない)

参加きっかけ

- ・ インターンシップへの参加が**卒業要件**として必須
- ・ 教員からの紹介
- ・ 交通費・宿泊費支給

- ・ 原子力分野への進学は頭になかった。
- ・ 積極的な参加動機ではなかった。

実習の振り返り

実習内容

令和5年度8月21日～25日の5日間(夏休暇期間)

- ・ 研究室ツアー見学
- ・ 加速器や材料分析に関する基礎的な講義
- ・ 加速器を用いた実習(運転体験、中性子イメージング)
- ・ 高専出身学生との懇談会

感想

- ・ 原子力分野の印象が大きく変化
- ・ 研究、設備の規模において高専との違いを実感
- ・ 原子力分野に触れる機会がなかったことで、勝手に遠い存在だと誤認していた。
- ・ 基礎学問も共通する部分が多かった。
- ・ 将来像が明確に

原子力分野との接点が生まれたことで、距離が縮まった

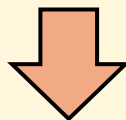
その後

3月に松山研究室を再訪問し、翌年8月末の大学院入試を受験し入学
最終的な決め手は、**研究内容、設備のスケール、雰囲気**

現在の研究は、中性子利用にむけた場の構築を進めており
実験準備、計画、実施にわたって幅広く取り組んでいる

最後に

高専は高校入学時に専門分野を絞るため、他分野との接点が少なくなる傾向



原子力分野との接点が生まれれば、選択肢の一つになり得る